

予防接種のすすめ



整形外科医師
平井康裕

肌寒い気候になりました。これからインフルエンザの流行時期を迎えますが、毎年ワクチン接種を受けていらっしゃる方は「今年もそろそろ」と思われるでしょうし、受けたことのない方は他人事と思えて全く気にならないことでしょう。

近年、20歳前後の若年者を中心に麻疹（はしか）や百日咳が流行したり、妊娠中に麻疹に罹患して胎児が先天性風疹症候群になったり、冬期に学校でインフルエンザが大流行したりしています。これはウイルスが強くなった訳ではなく、予防接種を怠っていることよって流行してしまっています。小児科医の方々にかかっていますと昔のように学校での集団予防接種を再開した方が良いという意見を多く耳にします。

また、従来は存在しなかったような新しい感染症として、エイズ

■ワクチンで予防可能な疾患

	定期接種	任意接種	追加接種
対象となる方	指定あり	希望者のみ	希望者のみ
負担金	補助あり	自費	自費
ジフテリア	○三種混合		
破傷風	○三種混合		○10年毎
百日咳	○三種混合		
麻疹	○MR		
風疹	○MR		
ポリオ	○		
日本脳炎	○		○5年毎
結核	○BCG		
インフルエンザ	○高齢者のみ	○	○毎年
水痘 (みずぼうそう)		○	
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)		○	
肺炎球菌感染症		○	
コレラ		○海外渡航時	
狂犬病		○海外渡航時	
黄熱		○海外渡航時	
A型肝炎		○	
B型肝炎		○	○必要時
天然痘	×	×	

※定期接種のものでも、自費で任意接種できます。
 ※医療従事者に対するB型肝炎については、勤務先医療機関が実施します。※天然痘は撲滅されており、現在予防接種はありません。

(HIV)やSARS、新型鳥インフルエンザなどがニュースとして報道されていますが、これらの感染症については、まだワクチンがありません。特に新型鳥インフルエンザが大流行してしまった場合には、日本国内で数万〜数十万人の死者がでるとも言われており懸念されています。

いろいろな感染症がありますが、中にはワクチンで予防できるものも多くあります。小児の頃に接種を受けておくべきもの(定期接種)のほかに、任意接種のものもあり、医療従事者が受けておくべきもの、

高年齢者が受けておくべきもの、海外渡航時に受けておくべきもの、などがあります。広く知られてはいないのが現状です。(左表)は日本国内においてワクチンで予防可能な疾患の一覧です。小児期の予防接種および高年齢者のインフルエンザワクチン接種については、定期接種となっています。その他については、任意接種(希望者のみ自費にて)となっています。インフルエンザワクチンは、小児は毎年2回、成人は毎年1回の任意接種が基本ですが、成人でも2回受けた方が効果は上がります。最

近では水痘(みずぼうそう)や流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)の予防接種を小児期に受ける方も増えていますが、特に成人発症の場合には重症になることがありますのでご検討下さい。また、定期接種についても40歳以上の方は小児期に受けていない場合が多く、受けただけでも日本脳炎は5年毎、破傷風は10年毎の追加接種が必要です。発生率は高くなっても重症になりやすいため、成人の方でも予防接種に関心をもって積極的に受けて下さい。詳しくは、かかりつけの医療機関にお尋ねください。